

会 報

第518号

発行日 平成28年11月25日
担 当 菊川市立六郷小学校
発達通級指導教室
〒439-0018
菊川市本所2200番地
TEL 0537-35-3147
FAX 0537-35-3148

自己肯定感を高める

菊川市立六郷小学校長 岡村達夫

本校は、菊川市中心街の南東側に位置し、南部には田園が広がり、東部には牧ノ原台地があり稲作やお茶の栽培が盛んな自然に恵まれた地域にあります。近くには商業施設や文化施設などがあり、体験的な学びができる学習素材に恵まれた学校です。ブラジルやフィリピンなどの外国籍の子どもが数多く在籍し、今も増加の傾向にあります。地域の方々は子どもたちの学習や学校の取り組みに協力的で、積極的にかかわってくれています。

本校の教育目標は、「伝え合おう やりきろう」です。「伝え合おう」には、互いの立場や考え方を尊重して、言葉を通して適切に表現したり正確に理解したりするという意味があります。それぞれの思いを素直に伝え合うことによって、心の通い合いが生まれ、深まり、共によりよく生きようとする力を育てることをねらっています。「やりきろう」には、目標をもつことや自分に自信をもつこと、自ら取り組む意欲をもつことを大切にし、根気強く取り組むとともに、自分や他のよさを見つけて伸ばそうとする子にしたいという思いが込められています。

通級指導教室ポプラ（発達）は、平成26年度に開設され、本年度3年目を迎えています。本校や菊川市内小学校の自閉症・情緒障害や学習障害、ADHD等で支援が必要な子どもが通っています。

ポプラで学ぶAさんは、手先が不器用で、作業処理がゆっくりです。他の子からからかわれたり自分の思いが通らなかつたりすると、大声で泣くこともしばしばあります。自己肯定感が低く、自分の思いを十分に伝えることができず、母親からは文字をきちんと書けないことを叱られ、双子の妹からも認められていない子どもです。Aさんにとって、基礎的な学習やソーシャルスキルを行いながらできることを増やし、自己肯定感を高めることが課題でした。指導担当は、Aさんが苦手なことでも理解ができるような支援をし、努力している過程を認めながら、「最後までできるようになったね。」「がんばったからできるようになったね。」などの言葉かけを繰り返し行いました。そして、指導の終わりには花丸をいっぱい付けて、「できた」「がんばった」という成就感や達成感を味わわせる指導を続けてきました。指導担当からは、次第に、「漢字をマスの中に収められるようになった。前向きに学習に取り組むようになった。」という報告が聞かれるようになりました。

所属学級においては、学級担任はAさんが安心できる居心地のよい学級づくりを目指しました。そして、学級の子どもからは「みんなと同じことができるようになった。」「がんばっているね。」と、Aさんを認め褒める言葉が出るようになりました。そんな温かな言葉かけや認められる経験を積み重ねる中で、「努力すれば自分もできる」といった自己肯定感をもてるようになりました。

同様に、母親もAさんに求めるハードルを下げていき、怒るより褒めるかわりをするようになったそうです。支援について共通理解を図りながら、できてきている経過やできていることをしっかり褒め、家庭と学校で共に支えています。

このように、通級指導教室では、Aさんだけでなく、家庭や学級と連絡を取り合いながら、どの子にも自己肯定感を高められるように努めています。

「通級指導教室ポプラ」の紹介



本校の通級指導教室ポプラは、平成26年度に開設され3年目を迎えました。菊川市唯一の発達通級指導教室です。本年度は、18名の子どもが通級しています。

学習・友達との関わり・コミュニケーション等、それぞれの困り感に寄り添い、子ども自身が自らの課題に向き合っ自分合った学び方・生活の仕方を身に付けることを目指して指導を行っています。そのために、子どもたちが通級での学習に意欲を持つことができるようにする手立てを工夫しています。学習ゲームや指導の最後に行う「お楽しみ活動」も工夫の一つです。

今までに取り組んできた中で、好評だったものをいくつか紹介します。

<計算すごろく>

その1

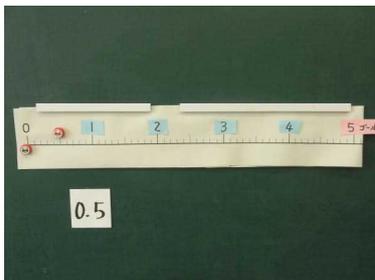


0～5と5～10の目のあるさいころを同時に振って行います。数字が100まで書かれているので、たし算やひき算だけでなくかけ算も使えます。0や10のかけ算も、遊びながら身に付けることができます。

すごろくの絵は、過去に使用して不要になった算数掛け図を利用して使っています。

<計算すごろく>

その2



数直線を使うすごろくです。さいころの代わりに数字カードを引いて、駒を動かしていきます。数直線の目盛りに慣れることもできます。

小数と等しい値の分数を理解するために、小数と分数の混ざったカードで繰り返し取り組んだ子どももいます。

<輪ゴム鉄砲ゲーム>



輪ゴム鉄砲で、トイレットペーパーの芯を倒します。芯には、数字や漢字等を書いた付箋を貼っておきます。倒した芯の数字の合計得点を計算したり漢字を書いたりします。輪ゴムを指先で動かしたりねらって撃つたりする動作が必要なので、手指の巧緻性や集中力も養えそうです。

芯を倒すだけでも楽しいので、「家でもやってみよう」と言う子どもが複数いました。輪ゴム鉄砲は、スチロールの板等で簡単に作ることができます。

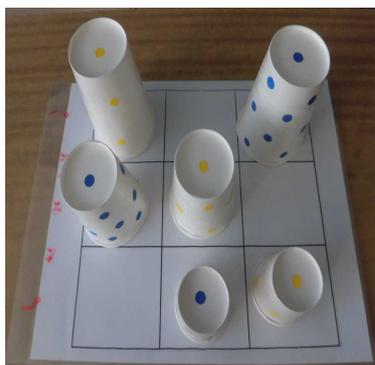
<風船バドミントン>



お楽しみ活動の一番人気のゲームです。子どもと一緒に保護者も楽しんで取り組んでいます。通常はラケットの代わりにうちわを使いますが、高学年の子どもは、本物のバドミントンのラケットを使うこともあります。

「ラケットで打ったら、風船が割れないかな。」と心配する子どもには、力加減を考えて打つのも勉強だと伝えていきます。ちなみに、まだ一度も風船が割れたことはありません。

<三つ並べゴブレット>



昨年度、静言研の新任者研修会のワークショップで石井泰子先生に教えていただいたゲームです。紙コップで作ったゴブレットが、大中小の3種類あるのが味噌です。大は中と小に、中は小の上に被さって一時的に相手のゴブレットを隠すことができるので意外な楽しさが味わえます。

このゲームにはまって、毎回リクエストする子どももいます。

<切り紙・折り紙>



ポプラには、作ることが好きな子どもが少なくありません。お楽しみ活動の切り紙や折り紙等を励みにして、通級している子どももいるようです。中にはポプラで落ち着いて取り組むことで上達して自信を持ち、夏休みの自由工作に取り入れたという子どもが何人かいました。

左の写真は、4年生の切り紙の作品です。教師が下絵の線を描き、子どもが一人で切りました。